

# 指導資料

# 国語 第152号

鹿児島県総合教育センター  
令和3年4月発行

対象  
校種

中学校 義務教育学校  
特別支援学校



## 「学びに向かう力」の涵養を強く意識した 中学校国語科の授業づくり

国語の大切さは理解していても、国語科学習に必要な感や有用感を感じている生徒は決して多くない。そのような生徒たちに、国語科を学習する意義や価値を実感させるために、「学びに向かう力」の涵養を強く意識した中学校国語科の授業づくりについて、教師の手立てを中心に紹介する。

### 1 国語科の授業で育成を目指す資質・能力

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）  
で国語科の目標は次のように示された。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

育成を目指す資質・能力が他教科等同様、「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で再整理された。

この三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、内容も〔知識及び技能〕及び〔思考力，判断力，表現力等〕で構成し直された。しかし、「学びに向かう力，人間性等」の内容は示されておらず、教科及び学年の目標においてまとめて示されている。そこに示されている態度等を養うことにより、「知識及び技能」及び「思考力，判断力，表現力等」の育成が一層充実することが期待されている。

### 2 国語科の授業に対する生徒及び教師の意識

令和元年度に実施された全国学力・学習状況調査の生徒質問紙によると、以下の国語に関する質問において、本県の生徒の意識として次のような調査結果が出ている（図1）。

- 質問1 国語の勉強は好きですか
- 質問2 国語の勉強は大切だと思いますか
- 質問3 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 質問4 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか

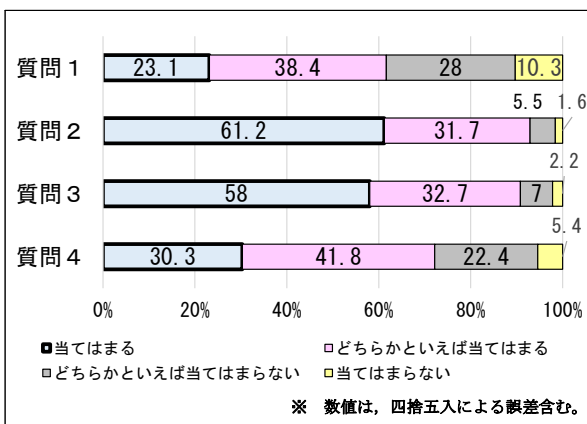


図1 国語に対する本県の生徒の意識

調査結果から、国語の勉強は大切であり、授業で学習したことは、将来、役に立つと回答した生徒が多い一方で、国語の勉強が好きである、授業で学習したことを活用しようとしていると回答した生徒は多くはないことが

分かる。国語を学ぶ大切さを理解しつつも、国語の学習へ興味・関心がもてなかったり、学んだことを授業以外の場で発揮できていなかったりする状況がうかがえる。生徒がこのような意識をもつ中で、日々の国語科学習は生徒にとって必要感や有用感をあまり感じられない学習になっており、「学びに向かう力、人間性等」を涵養しにくい状況が生じていると言える。

一方、教師は、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の育成に比べ、「学びに向かう力、人間性等」の育成に対して意識が低いことが推察される。このことは、当課が令和元年度・2年度に小・中・高等学校の教師1064人を対象に実施した意識調査からも分かる（図2）。

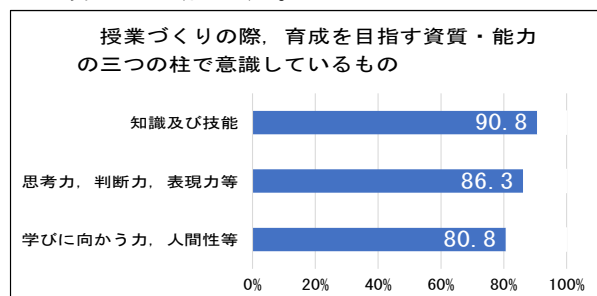


図2 育成を目指す資質・能力の三つの柱に関する意識調査

要因としては、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」が指導事項として示されているのに対して、「学びに向かう力、人間性等」は指導事項として示されていないことで、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成よりも教師が意識しにくいということが考えられる。

それでは、この指導事項に示されていない「学びに向かう力、人間性等」をどのように涵養していけばよいのだろうか。次項以降、「学びに向かう力」の涵養を図るための考え方について述べ、具体例を用いて説明していく。

### 3 「学びに向かう力」の涵養を強く意識した授業

生徒に「学びに向かう力」を涵養するため

に、当課では内発的動機付けに着目し、生徒が学びの価値を見いだす授業を実現することが肝要であると考えた。

内発的動機付けによる学習は知的好奇心を満たす目的となり得ることが広く知られているが、生徒が知的好奇心を抱く際、次のような感情が複合的に働くと考えられる。

・学びへの興味・関心	・学びの目的意識の実感
・学びの必要感	・学びの達成感
・学びの成功感	・学びのよさの実感 など

生徒はこれらの感情を重ねたり、繰り返し実感したりすることで、向き合った学びに対する価値を強く実感する。授業においては、このような感情を抱かせ、学びの価値を実感させるために、内発的動機付けが促される手立てを積極的に配する必要があると言える。

そこで、当課では「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点を見いだし、表1のように整理した。

表1 生徒に「学びに向かう力」を涵養する四つの視点

視点	各視点の基本的な捉え
必要性	学習に動機を与え、必然をもたせる視点
自律性	学習内容・方法を自分の意志で決められる視点
関係性	知識及び技能同士を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする視点
有用性	学習に意味を見いだし、自分の資質・能力に自信がもてる視点

「学びに向かう力」の涵養を意識した授業とは、生徒が学びの価値を見いだすことができるように、四つの視点を踏まえた手立てを積極的に配した授業と捉えることができる。

### 4 学びの価値を見いだせるように手立てを講じた国語科の授業展開例

中学校2年生の「敬語の働きや種類」について理解する学習では、どのように授業をつくっていけばよいだろうか。一般的な年間指

導計画を基に、教科書の学習内容を単純に並べて授業展開を考えると以下ようになる。

- 1 導入の例文を読み、敬語について考えさせる。
- 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解させる。
- 3 敬語の働きや種類について理解しているか確認するために、練習問題を解かせる。

このような流れで敬語の学習を進めても生徒の「学びに向かう力」を十分に涵養することはできない。敬語を学ぶ必要感や、敬語を学んだ有用感を十分に感じさせることができないからである。

そこで、表1で示した四つの視点を踏まえた手立てを講じて授業をデザインすると表2のようになる。





表2 「学びに向かう力」を涵養する授業展開例

学習活動	教師の手立て
1 新型コロナウイルス感染症の対応に当たる医療従事者関連の新聞記事を読む。	医療従事者に手紙を書きたいという意欲を高めるために、新聞記事を提示する。 <b>必要性</b>
2 医療従事者に感謝の気持ちを込めて手紙を書くことを確認する。	
3 学習目標を設定する。 どのようになれば、感謝の気持ちが伝わるように手紙を書くことができるだろうか。	敬語を学ばなければならない必然性をもたせるために、エラーモデルを提示する。 <b>必要性</b>
4 敬語の働きと種類について教科書や図書などで調べる。	追究方法を自分で選択させるために、必要な情報を考えさせる。 <b>自律性</b>
5 手紙を下書きする。	
6 書いた手紙を友達と相互に点検する。	協働的に学習させるために、敬語の適否についてお互いに点検させる。 <b>関係性</b>
7 手紙を清書する。	
8 学習のまとめをする。 敬語の働きや種類を理解すると、感謝の気持ちを伝える手紙を書くことができる。	学習したことを日常生活や社会生活でも、使っていこうと自覚させるために、振り返りをさせる。 <b>有用性</b>
9 振り返りをする。	

このように四つの視点に基づく手立てを講じることにより、生徒に敬語を学ぶことの必然性が生じ、より主体的な学びが促され、「学びに向かう力」の涵養につながると考える。

ただし、設定する手立ては、生徒の実態により当然変わる。大切なのは、期待される生徒の反応を吹き出しなどに書き出すなど、授業中の生徒の反応を想定して手立てを吟味することである(表3)。






表3 期待される生徒の反応を想定した授業展開例

学習場面	期待される生徒の反応例	教師の手立て
「問い」をもつ場面 	医療従事者の皆さんに、感謝の気持ちが伝わるように手紙を書こう。 敬語を自在に使えるようにするためには、どうしたらよいのかな。	敬語の誤用を使ったエラーモデルの提示 <b>必要性</b>
見通しをもつ場面 	どんな内容にすれば、感謝の気持ちが伝わるかな。 まずは敬語について教科書で調べろ。それから敬語を用いて手紙を書こう。	追究方法を考えさせるための発話の工夫 <b>自律性</b>
「問い」を解決していく場面 	敬語を使って手紙を書き上げたよ。感謝の気持ちが伝わり喜んでもらえるといいな。 敬語の使い方は大丈夫かな。友達に読んでもらってアドバイスをもらおう。	敬語の適否を点検するために協働的に学習させる場の設定 <b>関係性</b>
振り返りの場面 	この手紙が、医療従事者の皆さんの励みになると嬉しいな。 敬語は手紙だけでなく、改まった場面でも使うことがありそうだな。敬語を適切に使っていこう。	日常生活や社会生活でも適用できることに気付かせる振り返りの工夫 <b>有用性</b>

四つの視点を踏まえた手立てを講じ、その際、生徒の反応を想定することが大切であると述べてきたが、国語科の特性上、授業づくりにおいて重要なのが単元計画を立てることである。単元づくりにおいても、四つの視点を積極的に意識し、生徒の反応を想定しておくことが大切である。次頁に、中学1年生の教材『少年の日の思い出』を用いた単元構想例を示す。

教材『少年の日の思い出』を用いた単元構想例

- **単元名** 『少年の日の思い出』を読んで、情景や心情の描写を工夫して「私の少年の日の思い出」を書こう。
- **目標**
  - ・ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
[知識及び技能] (1)ウ
  - ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
  - ・ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
  - ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。  
「学びに向かう力、人間性等」
- **四つの視点に基づいた手立てを講じた単元構想**

過程(時)	主な学習活動及び期待される生徒の反応	教師の手立て
導入 (1)	1 単元の学習課題を確認する。  『少年の日の思い出』ってどんな話だろう。「私の少年の日の思い出」を書くのが楽しみだな。	○ 『少年の日の思い出』を目的をもって読むことができるように、「私の少年の日の思い出」を作文で書くという単元のゴールを示す。 <b>必要性</b>
	2 単元の学習の見通しをもつ。  『少年の日の思い出』では描写の工夫を捉え、それを生かして書けばいいんだな。	○ 「私の少年の日の思い出」を書くために、どのように学習を進めればよいか生徒に投げかける。 <b>自律性</b>
展開 (4)	3 教材「少年の日の思い出」を読み、情景描写や比喩を基に登場人物の心情を捉え、表現の効果を考える。  比喩を使うと気持ちがよく伝わるなあ。情景描写も気持ちを伝えるのに効果的だな。	○ 人物の心情の変化や描写の効果をつめるために、全文シートを用い、「私の少年の日の思い出」を書く際の参考にさせる。 <b>自律性</b>
	4 「私の少年の日の思い出」を書く。  教材に出てくる言葉だけでは書けないよ。もっと言葉を集めたいな。	○ 教材文以外からも必要な情報を収集できるようにするために、辞書を活用させる。 <b>自律性</b>
	5 互いの作品を交流し、自分の作品の表現に役立てる。  気持ちを表すのに比喩は効果的だな。自分の作品にも取り入れよう。	○ 多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりするためお互いに助言して、「私の少年の日の思い出」の表現を吟味させる。 <b>関係性</b>
終末 (1)	6 「私の少年の日の思い出」を発表し、まとめをする。  情景描写や比喩は、気持ちを表すのに効果的だ。「私の少年の日の思い出」を書き終えることができてよかったな。	○ 達成感や成就感を味わわせるために、出来上がった作品を発表する場を設定する。 <b>有用性</b>
	7 単元の学習を振り返る。  作文や日記を書くときにも描写の工夫をしてみよう。もっと言葉を増やしていきたい。	○ 学びの価値を実感できるように、学習内容、自己の変容、一般化の観点で振り返りをさせる。 <b>有用性</b>

(南大隅町立第一佐多中学校 稲留佳世教諭の実践を基に作成)

5 まとめ

生徒が国語科学習に価値を見いだし、主体的に学習に取り組んでほしいと願うのは国語科教師の共通した思いであると考えます。これまで私たちは、授業づくりの際、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に対する意識が低かったように感じる。資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していくことが、国語科の目標実現につながっていくことを鑑みると、「学びに向かう力」の涵養を強く意識した授

業づくりに努める必要がある。本稿で述べた四つの視点を踏まえた手立てを講じ、授業改善に努め続けることで、生徒はこれまで以上に国語科学習の大切さを理解するとともに、国語を学ぶ必要感や有用感を実感し、国語科の学びに価値を見いだしていくだろう。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』平成29年3月
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』平成29年7月
- 鹿児島県総合教育センター「令和2年度調査研究発表会における教科教育研修課の発表資料」令和3年1月  
(教科教育研修課 松永 英一)